へ13
3785
67

門へ13
3785
巻 67

# 釋迦八相倭文庫三拾四編

上冊

万亭應賀作
歌川國貞画

江戸人形町通
上州屋重藏版



夫猫王山の歡喜大王最期の悪念分身して数万疋の猫となりて末世如来の正法を妨るよしを紀せしの見涅槃像の猫の名を因て一口見せん

ゆるるより分るゝ今の世上史無量の弘法の眞は少き三味線の流行して宗

[illegible]チトンの爪弾あり殊ハ又青楼ハ是なるの第一の業

[illegible]正氣を失ふ客[illegible]かの観音の再生なる作り物記の中ハ

[illegible]ら女子の宮の猫撫声ハ拍木の角啼何でも平るとゝろなれど又世[illegible]

[illegible]雨ハ[illegible]ゝ処ハ極楽浄土佛の[illegible]南

無とゝ猫の[illegible]ハ三ヤムとゝハ世ハ仏[illegible]の経文も三ヤムかゝ[illegible]たんのう寅猫の

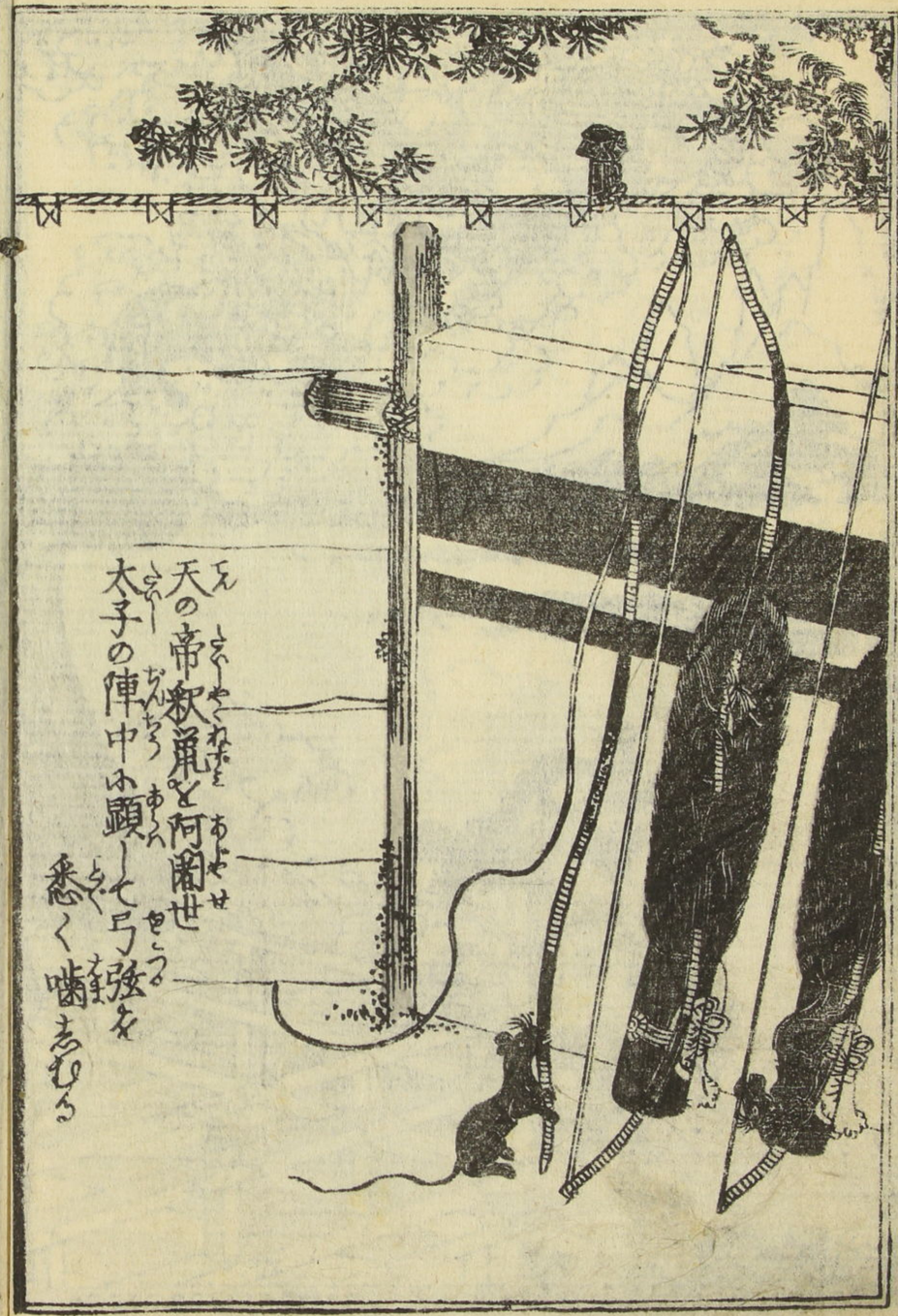
戯るでもるく晒落でもるく欲ハ伸[illegible]ハ[illegible]筆の命毛研[illegible]唯[illegible]

と[illegible]かく而已

安政三丙辰年
陽月吉日發行

万亭應賀誌

如来神通と
圓満具足夜叉の
九百九十九人の子の
投身と鉄鉢ふ助て
須陀洹果を
得さしめ給ふ
大加葉



天の帝釈鼠を阿闍世太子の陣中に顕して弓弦を悉く噛むる

ときとりめ さてもあんまんぐそく
やーやいかのつりむひをうちあと
してあとをとろーまーくもみを
ことあろうとうせんへとびあれて
ちうんさ大王ふりそがりくうぶ
やのありさまをうやうくとつまひら
ふものがるをきくもとらぶそうえき
たちまちあんめんいろりとあらうて
きーぎ まふたもちのがあんをゆこと
まうこあんまんの為ぜんせぶする あんとの
とことをくあめてイザのろさもふ
かやうらぶつりむひふくこそ考うを
ろもいさてうのたつあせうれがあるは
せよとたちあるをでうがれるあん
まんのあをぐーとたりとひをでめとの
でのうともふゆくども考くさをすのは
ことろあてうをさるとをもても
えやくだのそのかえあくせぎは
むあたふりくさのあくもあらん
あをーグやどふりてまのらんと
りとをとつけてたらんとせーふも
まくあることもらぶりちまろふあをくぶ
ことをとそろへかるーこのやう一ちーさまも
をくさをもがまんのこうをいうぐくとあのゆ
らのさあをとひとをちふあんぐあこまふのあをぶ
えづのるんものるまおりんこれくともはたくさまの
さんぜのくどこでいまよりいぶあうをえさるものとあるて

夜

「ゑ」大王へさえ
せんぐらうのゑんし
ぎつまをろむふ
せそんのゑんうらと
ゑそゑんそてのの
そのとろ合利并
こゑふまのりくうのそ
まこやくふゑんえせんと
きてとろくちんさ山岩とゑんふ
とどうあぐてかこさうこたびひとつこまふ
ぎりひんとこびかれどもむこふぎぎ春う
ぎうこそるかれがるこてふをきれてあこうく
ちろちうれむたがこをるつそるわどふまふ
とちもこもふゑうじろべやとんこあわきまて
なろうこりゑんまんもこのありこまうふゆゆこと
はくりゑどうたてゑぐーめこもりうぎりしふ
まゑりそうたちまちこふこけまー「ゑ」
これふめのせられてゑたまめまこよのぎふ
あくぎこえちろむすゆゑんまんのつま
ゑるきーぎかゆよりのこのどふよりそ
まこふまーんをひるくしぶつでーとそり
たるのこれこのこのくこうゑんちら
それをてりとーてこんきこえこをくこるのの
ゑくがこんせもかこもめりこくのまここうへ
春んとこをゑりんこうべやけのぎろ
こうけて天ちのゑむぎふまこれまーどと
ゑれをてゆこをきてもこちぐこうんきへ
まゑこと今ちとりこを「ハまこ

こうけこるめハ
たくへ少こもへ
へいこ
こまちゑ
こちこれ
こちゑ
こうれば
たこの
ゑれる
つこれこ
のかこ
こちや
あこある
のかこもゆ
ぎこぎこく
へたやかる
ゑんきのある
とゑハまの
あくりふてんぐこ
よりてんゑんをめて
もこうけこられがの
こものくこゑへ
きりてもちこ
ゆこぐまり
たれことこけぐ
ゆるゆこまくふ臣



ゑぐきこりへ
ゑくまこの山へみこくまゑこ
せのゆぜんこりこうけこ
こうのゑこうちふーて
こゑの天下へかこり
てもゆくふゑそ
まくこのもうく
こんやあこまのの
ゑくーされへいま
たくこさこぐこうへ
たいなのちぐが肌うれ
まここゑこどこの山
ゑこうへてこられ
ぎそもゆんけへこふ
もこうこうこけめ
ひけこぐふこの山中ゑ
のここうくふまこ
こゑへちこぐこゑふまを
るゆこのべこせへまゑるふこのゑこと
ゑんぐここ山ゑこのゆこ
ゑんこここれゑこ「こぐこうこのゆこむ
きーここまここうこゑぎこゑこれこ
こまへここまここゑこ
まこふこちもゑんこここもふこちここ
これーふゑこぐるゆまここれこうん
のだへこうこここふゑまこりゆこ
ゑこことーこゑこゑこゑこゑこゑこ

王

さそ又この山
ゆこしこうゑ王
のまこここゑこ
かこせこんこの
ふゆこぜゑこて
へ山ゑこそ
こうこのゑこ
こゑこここ
ここここゑこ
ここゑこここ
ここここここ
ここここここ
こここ

◆ごんぐらのあることうんじゅもりくてうかとのさあくふとえとそくんられそくんるるそのやるきのれとあ
▼ちまるかあ
▼あとうんのあんのあるとと

▼かとうの如来
▼あとうれかるかるれ
てそれらのようを
ムラムンぎふつ
今ときふ正ゆか

# 應賀作國貞画

## 安政三年丙辰春新板目録


倭文庫　三十四編　三十五編　三十六編　三十七編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

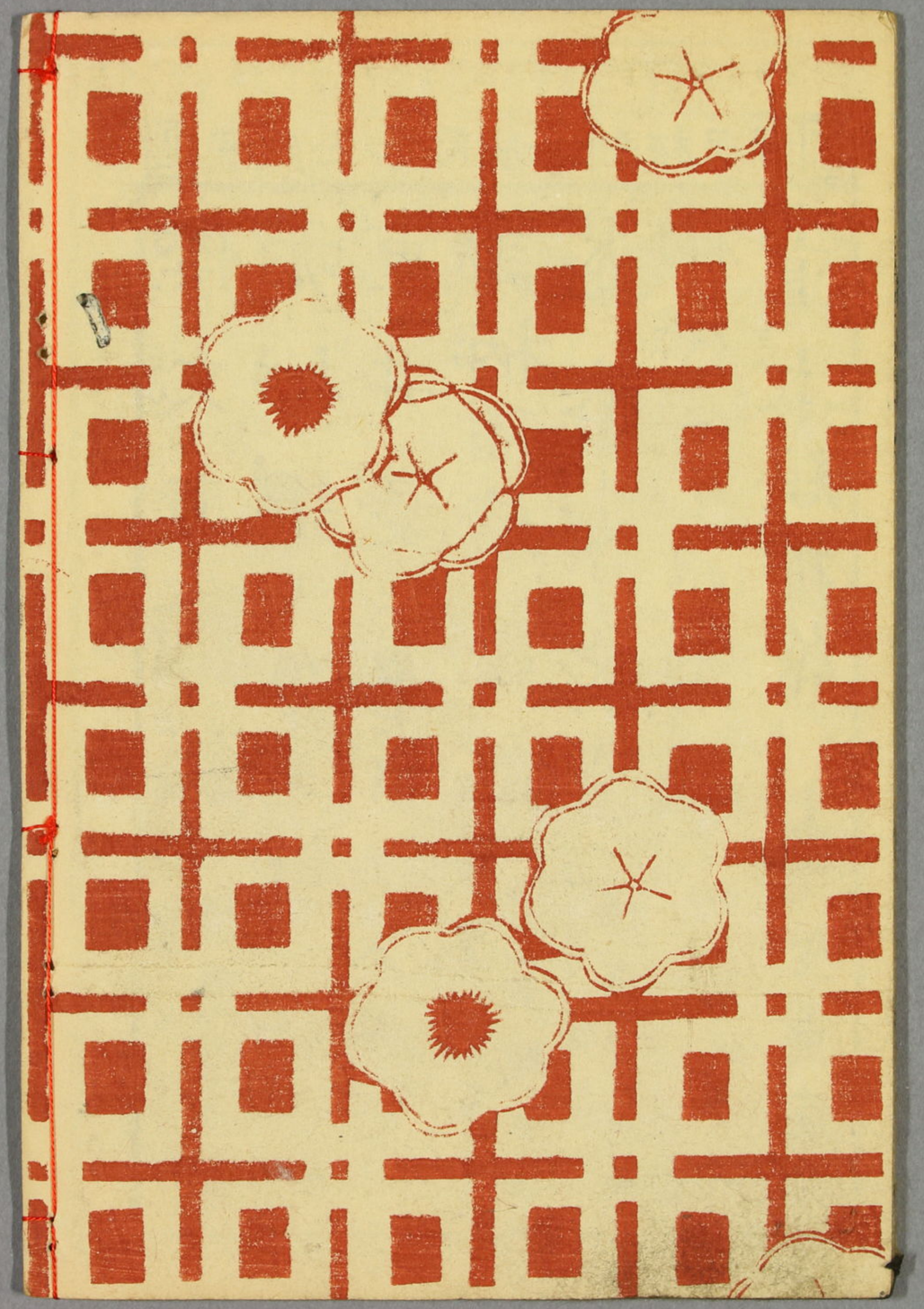
赤松譚　九編　十編　如淵外史作　同画

重井菱　六編　七編　為永春水作　同画

譚柄璃璃蔭　四編　五編　西澤一鳳作　一勇齋國芳画

茶番案文　全冊　万亭應賀作　一陽齋豊國画

神代そろは　三編　四編　同　一勇齋國芳画



重本類錦繪　人形町　上州屋重藏